

お墓は小さな鋳物地蔵

埼玉経済

遺骨入れ手元供養

墓地問題でユニークな提案をしている。手のひらに乗る小さな鋳物のお地蔵さん。名付けて「手元供養地蔵」。体内に密閉できる金属カプセルを埋め込んだ。カプセルに遺骨を入れると「お墓」になる。いつも身の回りに置いておき、故人をしのぶことができる。(岸鉄夫)

キラッと★
カンパニーズ★

地蔵は高さ110ミリ、幅90ミリ、奥行き75ミリ。重さは700グラム。地蔵の底に湿気に強い密閉可能なカプセルのふたがあり、米粒大なら210粒

が入る。本体はブロンズの鋳物。カプセルはステンレスブロックから削り出す。価格は10万円代から800万円代まで。

「奈良や鎌倉の大仏様、アメリカの自由の女神もブロンズ製。強度に優れる。このお地蔵さんは火事や水害でも強



卓上に置いた手元供養地蔵と永瀬満康社長
=川島町の工場

ナガセ(川口市)

い」と永瀬満康社長(50)。「東京へ出てきた人が、遠い故郷の墓を守っていけないで墓しまいを強いられる。今、お墓事情が深刻だ。だったら大事な遺骨を手元に置いて、いつまでも故人がそばにいたいと感じることができれば方法もあると考えた」と永瀬社長。永瀬さんは川口市本町の生まれ。実家の前の荒川堤防の上の船戸小学校、南中に通った。県立川口北高校から米国立カリフォルニア州のリンカーン大学に留学。国際経済を学んだ異色の社長だ。先祖は500年前に京都から川口に來た鋳物師。川口鋳物師5人衆のひとつ、永瀬利右衛門という。いま5代目になる。永瀬鋳工の社名は2000年にナガセに変えた。川口市本町1の8の16▽川島工場(☎049・297・1690)

永瀬満康社長

業者間取引ではなくエンドユーザー向けのオリジナル製品を作りたい。その志を燃やし続ける。地蔵はネット販売に期待している。

企業、団体、商店街などの話
TEL 048・7995・91
✉keizai@saitama-n